

交通バリアフリー教室の開催状況（平成29年度）

（１）趣旨・目的

高齢者や障がい者の方などの自立と社会参加の要請へ適切に対応し、高齢者や障がい者の方などが公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、国をはじめとした社会全体における施設整備（ハード施策）のみならず手助けをしやすい環境づくり（ソフト施策）を進めることも必要です。

このソフト施策のひとつとして「交通バリアフリー教室」を開催し、介助や講話等を体験することにより、国民一人ひとりが交通バリアフリーについて理解を深めるとともに、福祉ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障がい者の方などに自然に快く手助けできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指します。

（２）交通バリアフリー教室の実施状況

中部運輸局管内における交通バリアフリー教室の開催実績は、平成14年度から平成29年度（平成30年1月時点）までの合計で237回、約18,900人の方にご参加頂き、心のバリアフリーの普及促進に向けた啓発活動を行いました。

年 度	開催回数	参加人数	年 度	開催回数	参加人数
平成14年度	2回	62人	平成22年度	29回	1,976人
平成15年度	3回	101人	平成23年度	29回	3,272人
平成16年度	4回	226人	平成24年度	21回	1,474人
平成17年度	8回	291人	平成25年度	19回	1,414人
平成18年度	19回	1,139人	平成26年度	14回	1,707人
平成19年度	20回	1,201人	平成27年度	11回	987人
平成20年度	23回	1,892人	平成28年度	10回	1,270人
平成21年度	18回	1,252人	平成29年度	7回	652人

（３）実施概要

中部運輸局管内において平成29年度に実施したバリアフリー教室は、管内で合計7回開催し、合計652名の方々に参加いただきました。

平成29年度に開催した交通バリアフリー教室の一部を紹介します。

中部運輸局 バリアフリー教室

開催日程：平成30年1月15日（月）
開催場所：御器所駅
主催：中部運輸局（交通政策部）
中部地方整備局（企画部）
名古屋市交通局（自動車部、電車部）
協力：中部地方整備局中部技術事務所
参加者：愛知県および名古屋市など自治体職員及び社会福祉協議会の職員など 26名

平成29年8月22日に開催した基本構想セミナーのアンケートにおいて、自治体の80%が「心のバリアフリー教室」未開催、出席者の60%以上が障がい者の方の感じる不便や声のかけ方に不安との回答があり、自治体職員等を対象に「心のバリアフリー教室」を開催しました。座学では障がい者の方からの経験談をお聞きし、疑似体験では従来の体育館などの閉ざされた場所ではなく地下鉄の構内を使用した実生活の場で行いました。



車いす利用者の方の講話



視覚障がいの方が段差の介助方法を説明



車いすでのスロープ体験



白杖やアイマスクを使用した体験

(参加者の意見・感想の一部)

- 心のバリアフリーの情報を提供してほしい。
- 心のバリアフリーの啓発を続けていきたい。
- 心のバリアフリーに理解があるだけで、取り除けるバリアは多いと感じました。
- 職員さんがこのような教室を受けているのか？と思います。色々な取組の情報があれば一般の方もわかりやすい。
- 事業者の心のバリアフリーについて聞きたい。事業者への啓発のきっかけがない。
- 当市のバリアフリー講座にて本日の経験を受講者に伝える。

静岡運輸支局

開催日程 : 平成29年11月29日(水)
 開催場所 : 三島市立中郷小学校 校舎内及び体育館役所駐車場
 主催 : 静岡運輸支局
 三島市
 社会福祉法人三島市社会福祉協議会
 協力 : 三島市身体障害者福祉会
 株式会社東海バスオレンジシャトル
 静岡トヨペット株式会社
 参加者 : 小学校4年生 66名

静岡運輸支局では、視覚障害者の方からの講話、アイマスク体験・車いす体験・

福祉車両体験・バス乗降体験を実施しました。子供達は初めて体験した事ばかりで、驚いたり困ったりしている様子が見られました。子供達からは今まで知らなかったこと、初めて体験して分かったことなどの感想がありました。



講師の方と盲導犬の“ノヘア”



体験学習の注意点等の説明



恐る恐る歩いています



段差を乗り越えて緩い坂道へ



スロープ付き及び車いす吊り上げ用クレーンの福祉車両を使用した乗降体験



スロープが上昇すると驚いた様子



代表者発表

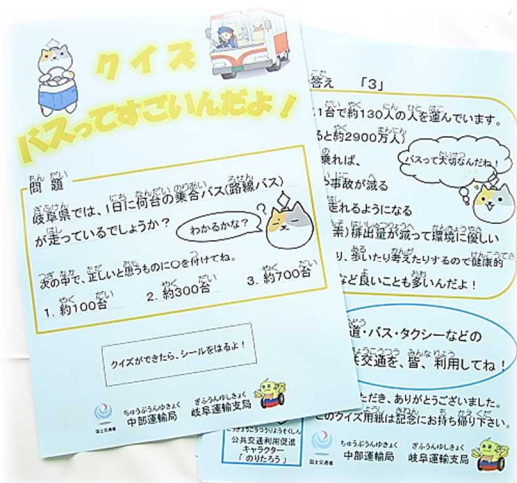
岐阜運輸支局 「大垣市のりものフェア」

開催日程 : 平成29年10月1日(日)
 開催場所 : 大垣市中心市街地商店街一帯
 参加団体 : 岐阜運輸支局
 名阪近鉄バス
 養老鉄道、樽見鉄道、長良川鉄道、明知鉄道など
 参加者 : バリアフリー教室 推計120名
 クイズ 417名

岐阜運輸支局では、ノンステップバスを利用した「バリアフリー教室」を実施し、車イス利用者に対する「心のバリアフリー」について呼び掛けを行ったほか、バス等公共交通の役割や大切さを来場者に学んでもらう「クイズ バスってすごいだよ!」を実施し、バスの乗り方教室や運転士制服試着も体験して頂きました。



車いす乗車体験



福井運輸支局

開催日程：平成29年6月27日（火）
 開催場所：越前市味真野小学校
 協力：社会福祉法人越前市社会福祉協議会
 社会福祉法人光道園
 福井鉄道株式会社
 公益社団法人福井県バス協会
 参加者：小学校4年生 37名

福井運輸支局では、座学では障がい者の方の接し方について、疑似体験ではシニア体験（文字記入、硬貨取り出し、読書、階段歩行）、車いす体験（段差、ボール拾い、カラーコーン及びマットを使用した障がいのある通路の走行）、バス乗降体験の3コースを体験して頂きました。



アイマスク着用にて視覚障害の疑似体験



車いすに乗りながらの動作に苦労



車いすの段差乗り上げに苦労



バスのバリアフリー設備等について説明



車いすを使用したバスの利用

（参加者の意見・感想の一部）

- 車いすの方は自分で操作するのは楽であると思っていた。実際は、どんな時にタイヤを動かすのかを考えなければならないことがわかり大変でした。もし1人で車いすを操作している方がいたら補助をしてあげたい。
- お年寄りや障がい者の方の気持ちがわかりました。お手伝いする時は、どのようにすれば障がい者の方が楽になれるのかもわかりました。そういう人たちがいたらお手伝いをしていきたい。
- 車いす体験では、段差があるとちょっと恐怖感があり、手を洗うにも蛇口に手がなかなか届かなかった。